

令和5年度 自己評価表 坂町立坂小学校 ～「本気」と「感動」～

中期経営目標	短期経営目標	評価項目(具体的な取組・方策)	評価指標	参考値 (令和4年度)	目標値		実績値		評価 (自己評価の結果)	成果と課題	改善策
					令和5年度	中間	最終	中間			
【確かな学力】 主体的に学び、最後までがんばり、豊かに表現することができる児童	基礎的な学力の定着	○ 日常的な授業改善(ICTの活用・授業観察) ○ 帯タイムや水曜道場における個別指導の充実	単元末テスト【国・算】	単元末テスト(知識・技能) 89.2%	単元末テスト(知識・技能) 85%以上	88.7%	89%	A	・ICTを効果的に用いて児童の理解を促したり、学習内容の定着を図るなどの日常的な授業改善に取り組んだりした結果、単元末テスト【国・算】において目標値を上回る状況が見られた。発達段階や個に応じた手立てにより、個別最適な学び・協働的な学びの実現に近くことができた。	・各学級・学年の平均点は目標値を達成することができたものの、学習到達率が60%を下回る児童が一定数いる。そのため、「分かる授業」のより一層の実現に向けて日々の授業改善に取り組む。また、個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けた取組を進めていくことができるように、学習の場を設置していく。	
	論理的思考力・読解力の育成	○ 「理由付け」「比べる」の焦点化 ○ 日常生活に関わる言語活動を充実(報告・対話・討論・説明・要約等) ○ ICTの効果的な活用 ○ 読書推進	単元末テスト【国・算】	単元末テスト(思考力・判断力・表現力) 84.3%	単元末テスト(思考力・判断力・表現力) 80%以上	86.3%		A	・授業や研修を通して学びの交流や研鑽を進めることにより、ICTの効果的な活用場面が増え、児童の思考や表現の手立てとなり、自信にもつながっている。 ・言語活動においては、国語科だけではなく他教科でも意識的に行ったり、朝のスピーチなど日常生活の中にも取り入れたりし、各学年に応じた活動が行うことができた。一方で、児童が目的意識や相手意識をもてず、話したり聞いたりしているため、適切な力を身に付けられていない。	・ICTを効果的に活用しながら、自分の言葉で思いや考えを伝えられるような場を意図的に設定していく。 ・相手意識、目的意識を明確にもたせて活動を行ったり、与えられた情報を正確に処理できるようにトレーニングを行ったりする。	
【豊かな心】 礼節を重んじ、友達や家族を大切に思う心をもち行動しようとする児童	礼節の向上・挨拶・黙動清掃	○ 礼節週間での取組(望ましい返事・あいさつの充実・じかんいっぱいすみずみまで掃除)	児童アンケート	【挨拶】90.5% 【掃除】89.6%	85%	【挨拶】84% 【掃除】80%	【挨拶】85% 【掃除】82%	B	・挨拶週間を通して、執行部が意識を高める取り組みを行ったことで、あいさつをする児童が少し増えてきた。 ・そうじを頑張ることはできているが、「だまって」というところに課題が残る。	・執行部や生徒指導部であいさつの意識を高める企画を検討する。 ・集会や朝会などを通して、児童に伝えていくことはもちろん、教職員にも意識して声掛けをしてもらうようにする。	
	思いやりの心の育成	○ 児童の発達段階に応じて行う姿の価値付け	児童アンケート	94.4%	90%	89.0%	92%	B	・学年の実態に合わせて、学校行事や道徳の時間などで自己有用感が向上するような取り組みを行ったことで思いやりの心を育成することができた。	・来年度も引き続き取り組みを共有していく。	
【たくましい体】 体を動かすことが好きで、基本的な生活習慣が身に付いている児童	体を動かすことが好きな児童の育成	○ 授業の工夫(授業始めのサーキット)	児童アンケート	78%	80%	88.0%	88%	A	・専科の教員を中心に授業の工夫が見られた。 ・休憩時間に体育委員会が外遊びの呼びかけをし、道具を出すことで外遊びをする児童が増えた。	・体育委員会を中心に今の遊びの継続と、新しい活動を児童主体で考えて進めていく。	
	健康を守る意識の向上	○ メディアコントロールの改善と定着(メディアコントロールカード)	児童アンケート	【メディア】92%	80%	93.3%(5月実施) 【アンケート】73%	91%(1月実施) 【アンケート】73%	A	・5日間という期間だからこそ、その期間を意識して取り組むことができている。 ・その期間は意識してできるが、継続することが難しい。	・実施前や実施後に児童が自分の生活に対して見直す時間を設定する。 ・項目ごとに課題を見て、次のときに重点目標とする項目を各学年ごとに設定して取り組む。 ・児童の実態に応じた項目の見直しをする必要がある。	
【信頼される学校】 地域・保護者とつながる、安全・安心な学校	地域・保護者との連携・協働	○ 学校だより、学年だより、HP等による教育活動の発信 ○ 心に寄り添う生徒指導と教育相談	保護者アンケート	【様子が伝わる】96.4% 【相談】92.1%	90%	【様子が伝わる】95.7% 【相談】90.9%	【様子が伝わる】95.5% 【相談】92.6%	B	・ねらいに基づいた取組を通して児童がどのように成長したか児童の姿・言葉・変化の様子など肯定的な評価を行って紹介し、児童の自己肯定感の高まりを発信できた。 ・保護者の悩みを担任が速やかにSCやSSWとも連携して解決・方策を立てることで見通しや安心感をもってもらった。	・学校生活全体での児童の成長が伝わる紙面・地域や保護者との連携を通じた児童の成長などを具体的に伝える。 ・SCやSSWとの面談を通して保護者や児童の心に寄り添った相談体制を今後も大切にする。少数ではあるが相談しにくいという声があることも真摯に受け止め丁寧に対応していく。	
	組織力の向上	○ 組織的な業務改善 ○ 組織による危機管理	業務改善アンケート	【目標管理】100% 【充実感】81%	85%	【目標管理】94% 【充実感】72%	【目標管理】88.9% 【充実感】94.4%	A	・各主任が早目に提案事項を周知させることで、個人のペースに合わせて業務を行うことや学年での連携の時間が確保でき充足感が高くなった。一方、目標管理において個々人の目標の高さや達成度の違いがアンケートに現れた。適正に実態に応じて修正できるようにする。	・人材育成を学校職員がチームで行えるようにし、定期的に目標の進捗状況を確認し、具体的な方策を考え合うようにしていく。 ・相談のしやすい職場環境を作り、引き続き報告→連絡→相談→確認を確実に行う。	

【自己評価 評価基準】 A: 目標は十分達成された(目標値+5%以上) B: 目標は達成された(目標値±4%) C: 目標は達成されなかった(目標値-5%以下) D: 目標は全く達成されなかった(目標値-10%以下)